

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査結果及び分析・対策（松江市立島根小学校）

令和元年9月 17日

(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策
国語	○既習漢字は定着している。 ○話し手の意図や文章の内容に即して必要な情報を取り出したり、質問したりできる。 ●文章の構成を考えたり、適切な表現を用いたりして、文章を書くことが苦手である。 ●記述の仕方の工夫の理解が不十分である。	・相手や目的に応じて文章を書く場を、繰り返し設定する。 ・文章表現の工夫について、意図的に指導を行う。
算数	○日常生活の中で課題を解決するという問題の意図を読み取り、解決への道筋を立てることができる。 ○示された図形や計算の仕方についての問題を解釈し、算数的な言葉を用いて説明することができる。 ●計算に関して成り立つ性質を他の数値や場面に変えても成り立つことを表現する時に、適切な算数的な言葉を使うことが苦手である。 ●理由を説明する問題に対して、理由と結論を明確にして記述することがやや苦手である。	・算数的な表現に慣れておく必要がある。そのために、普段の授業の中で積極的に使う場面を増やすようにする。 ・設問に長い説明や条件設定が続くと、何を問われているかわからなくなる子がいるので、聞かれていることへ正対できるように手立てを考える。

(2)生活意識調査から見られた傾向

成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策
○全国平均と比較すると、生活習慣が整っている子がやや多い。 ○担任への信頼感、学級への所属感が高い。 ●算数にやや苦手意識がある。回答時間が足りないと感じる子が多い。 ●家庭学習の時間が1時間未満が45%おり、家庭での学習時間は少ない。 ●ICTの使用頻度が少ない。	・算数での努力を個別にほめる。 ・苦手意識の強い子どもには引き続き補充学習や支援を行う。 ・家庭学習の計画を子ども自らが立て、自己評価する取り組みを行う。 ・ICTを使用する機会を増やす。

(3)意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)

肯定的回答割合(%)

■ 本校 ■ 島根県 ■ 全国

(4)学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)

(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・放課後「ぐんぐんタイム」で、複数体制で学力補充をする。

・自分で計画を立てて取り組む自主学習の時間が増えるよう、働きかけを行ったり、課題を工夫したりする。